

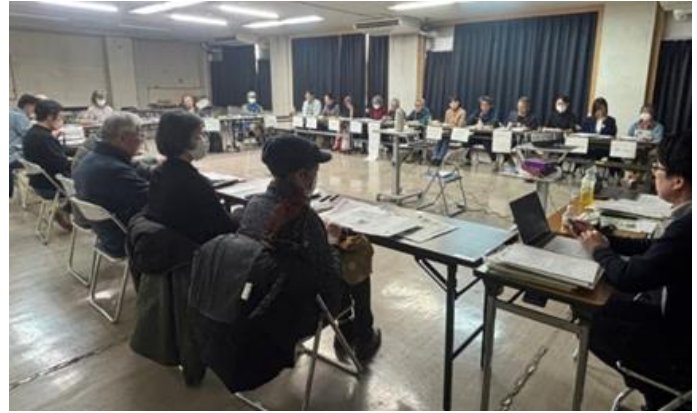
生きものの会議（全体会議）を開催しました - 現場の声をもとに、これからの方向性を共有 -

令和8年2月4日、「世田谷生きものの会議（全体会議）」を開催しました。

当日は、市民団体・専門家・個人活動者など多様な主体が参加し、それぞれの活動や課題、今後の連携について意見交換が行われました。参加者の活動は、長年継続されている生きもの調査や、学校と連携した里山活動、都市公園での環境づくり、子どもを対象とした自然体験活動などで、世田谷区内の多様な取組が共有されました。

一方で、「生きものの減少」「外来種の増加」「活動の担い手不足」「調査データの活用」など、共通する課題も多く挙げられました。

（詳細は裏面をご覧ください。）



今年度の主な取組

■ 専門家派遣制度の活用

世田谷区立瀬田小学校および世田谷区立駒繫小学校へ専門家（生きものアドバイザー）を派遣しました。子どもたちは身近な生きものの特徴や生態について熱心に話を聞き、多くの学びを得る機会となりました。派遣先は学校に限りませんので、ご検討の際は、みどり政策課までお問合せ下さい。

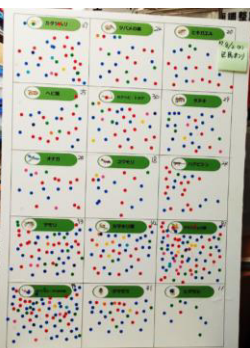
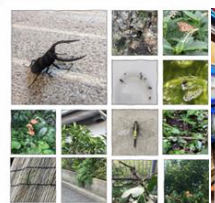
■ 区民まつり

2025年8月2日（土）・3日（日）にJRA馬事公苑で区民まつりが開催され、多くの来場者で賑わいました。

みどり政策課のブースでは、生物多様性普及啓発の一環として、生きものへの関心を調査する企画を実施しました。区内で見られる生きもの写真パネルを展示し、「見たことがある生きもの」にシールを貼ってもらう参加型の調査です。

調査には975人の方が参加しました。最も多くシールが貼られた生きものはアゲハチョウ類で167枚、続いてカブトムシ・クワガタムシ類が156枚でした。夏の開催ということもあり、身近な昆虫への関心の高さがうかがえる結果となりました。

また、みどりの基本計画策定のためのアンケートも実施し、



景品として生きもの缶バッジ入りガチャポンをしていただき、生物多様性に興味を持つきっかけづくりを行いました。

■ 生物情報の整理

調査データの蓄積を進め、活用に向けた基盤づくりを行っています。区のHPで公開していますので、ぜひご覧ください。



■ 多摩川子どもシンポジウム

2026年3月1日、二子玉川公園近くの玉川分庁舎大会議室で「多摩川こどもシンポジウム in 世田谷」が開催されました。当日は、多くの親御さんが見学に訪れ、会場は大盛況でした。

今回のシンポジウムには小学生から大学生まで幅広い年代の子どもたちが参加し、多摩川や身近な自然を題材にした研究成果を発表しました。ミズが住みやすい環境を比較した研究や、多摩川全域を対象にした広域の生きもの調査、小学校のクラス全員が劇のような形式で取り組んだインセクトホテルの発表など、どの発表も視点がユニークで、大人顔負けの内容が並びました。会場からの質問も多く、子どもたち同士のやり取りも活発で、熱気に包まれていました。

また、世田谷区からは特定外来生物であるクビアカツヤカミキリについての説明があり、子どもたちの学びと地域の取り組みがしっかりと結びつく充実したシンポジウムとなりました。



○ 当日の主な流れ (次第)

- 1 生きもの会議について
- 2 参加団体の活動内容の紹介・意見交換
- 3 役立つ制度の紹介

1 生きもの会議について

会議の目的や経緯・課題について、区より説明があり、共有しました。

① 生きもの会議の設立経緯

団体同士の連携や情報共有の課題を背景に、「つながる場」として設立されました。

② 会議の目的

- ・ 団体同士の連携強化
- ・ 情報共有と知見の蓄積
- ・ 生物多様性保全の推進

③ 今後の課題

「情報の蓄積」「団体同士のつながり」「継続的な対話」の必要性

2 参加団体の活動内容の紹介・意見交換

■ 活動内容の紹介 (抜粋)

各団体から具体的な活動や現場の状況が紹介されました。

- ・ 長年、毎日生きもの調査を続けている
- ・ 20年以上森づくり活動を続けている
- ・ 鉄道跡地を活用した緑化活動
- ・ 市民緑地・特別保護区での保全活動
- ・ 公園における生きものの生息環境づくり
- ・ 小学校と協働で児童が参加する里山体験や、伐採木を活用した活動 (シイタケのコマ打ちなど)
- ・ 環境学習と保全活動が一体となった事例紹介
みどり保全・生きもの関連の多様な取り組みが報告されました。

さらに、生きものの減少 (ヤマトマツムシ・イチリンソウ) や外来種 (ヒメオドリコソウ) の対応の必要性、日常では目にしない在来種 (タヌキ・ヒキガエル) の撮影や観察、河川環境の変化なども紹介されました。

■ 現場からの活動についての課題 (抜粋)

- 各団体・参加者から具体的な声が寄せられました。
- ・ 「長年蓄積してきた調査データの活用方法に悩んでいる」
- ・ 「情報交換しながら在来種を守りたい」
- ・ 「伐採木や竹など、発生資材の有効活用について共有したい」



- ・ 「保全活動に対する地域住民の理解を得ることが課題」
 - ・ 「子どもが自然と関わる機会や場所が減っている」
 - ・ 「団体だけではつながりに限界があり、行政の支援が必要」
 - ・ 「担い手不足による活動継続の課題」
- また、
- ・ 「見学会や交流の機会を増やしたい」
 - ・ 「メンバー専用の情報共有の仕組みがほしい」といった、具体的な連携に関する提案も多く挙げられました。

■ 今後の生きもの会議に期待すること (主な意見)

- ・ 継続的な交流の場としたい
- ・ 団体同士の情報交換 (生きもの・外来種・活動事例等) を活発化したい。
- ・ Webページで活動や成果を見える化したい
- ・ 見学会やフィールドワークを実施したい
- ・ 分科会を設け、テーマごとに議論を深めたい
- ・ 行政が団体間をつなぐ役割を担ってほしい
- ・ 情報公開のルールを整理し、安全に共有したい
- ・ 子どもや次世代の担い手育成につなげたい

■ 今後に向けて

今回の会議では、「個々の活動は充実しているが、つながりが不足している」という認識が共有されました。

今後は、生きもの会議を中心に、

- ・ 情報の見える化
 - ・ 分科会や現地見学の実施
 - ・ データ活用の仕組みづくり
- を進め、連携の強化を図っていきます。

3 役立つ制度の紹介 (区)

専門家派遣制度 (表面参照) や、生きもの会議 Webページ (以下参照) について説明しました。

情報発信、情報共有等の記事を募集

生きもの会議Webページを公開中です。
活動報告や助っ人募集、PRなど、事務局まで記事原稿をお寄せください。



生きもの会議Webページ

ホームページイメージ

せたがや生きもの会議

せたがや生きもの調査



ホーム | せたがや生きもの会議とは | 団体紹介 | イベント紹介 | 助っ人募集

facebook



せたがや生きもの会議
Setagayalivingthingsmeeting

「世田谷生きもの会議」開催の経緯

「生きものつながる世田谷プラン」の策定にあたっては、生物多様性に配慮した活動をされている多くの方々からご意見をいただき、活動団体同士の連携や、知識・ノウハウの共有、現場のマンパワーなどが課題として挙げられました。こういったご意見を受け、皆さんの活動に役立てられる場として、「生きもの会議」を立ち上げました。